

多くの応援医師が診療にあたる当院での 病棟及び外来専任薬剤師の配置による 患者治療への貢献

愛媛県立南宇和病院 薬剤部

○尾上 裕貴, 烏谷 政和, 中平 真由美, 中野 友寛, 吉田 三生, 森 正一

背景・目的

当院は愛媛県最南端に位置し、地域医療の中核病院としての役割を担っている。常勤医師は8名（定員22名）と医療崩壊に見舞われ、多数の応援医師の協力で診療を続けている。そのような中、病棟薬剤業務（以下、病棟業務）の保険点数化は当院の再生に薬剤部が大きく貢献できるチャンスとなった。当院では電子カルテなどは導入されておらず、薬剤師が病棟で行うべき業務は多い。そこで、部内の業務を再構築し、インフラ整備を図り、**紙カルテベースの病棟業務を開始**した。病棟業務では患者治療に本格的に参画し、質の高い薬物療法に貢献して、チーム医療の実践における薬剤師の存在意義や有益性を証明した。更にこの**実績が医療への薬剤師の貢献として院内で認知**された今日、**外来診療業務に関しても薬剤師を配置**し、一定の評価を得つつあるので報告する。

結論

病棟業務開始以降、服薬計画の立案及び処方提案を行うことで薬物療法への介入も本格化した。配薬確認により薬に関するインシデントの減少ができたばかりでなく、医療スタッフと接する機会も増え、患者の情報共有や治療方針の確認の場が持てるようになった。また、平成27年7月に開始した外来業務も広く認知され、**現在では薬に関することは薬剤師への流れが院内全体に定着**しつつある。さらに薬剤師が病棟や外来の診療に介入することで、当院の採用薬やシステムに不慣れな**応援医師の患者薬物治療に貢献**できているとの評価も得られている。また、**病棟と外来の専任薬剤師間での患者情報の共有**も入退院時の円滑な介入へと繋がっている。薬剤師の配置により**医療スタッフの薬物療法への理解が増し、安全で効果的な使用に向け、よい影響を与えられた。**

当院の概要

病床数：120床 病棟数：3病棟 入院患者：平均100人
医師：常勤8名
IT整備：調剤業務支援システム
医療用画像管理システム上の患者情報、検査情報（電子カルテ、オーダーリングシステム**未導入**）
薬剤部：薬剤師6名（非常勤1名含）、事務職員3名
病棟業務開始：平成25年11月1日
薬剤管理指導件数：平均120件/月
退院時薬剤情報管理指導件数：平均65件/月

病院内での薬剤師の配置状況

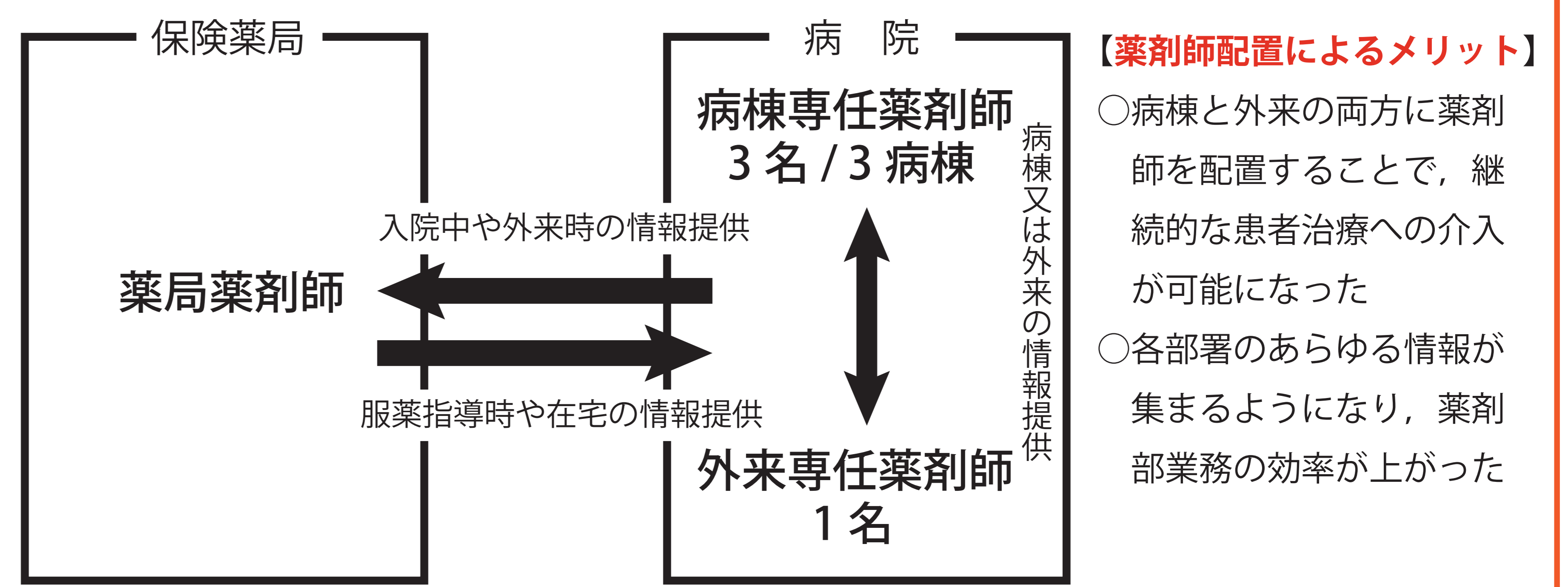


図1 病院内での薬剤師の配置と保険薬局との連携

紙カルテベースの病棟業務

【病棟専任薬剤師】

主に以下の日程で業務を行う

時間	業務内容
8:30	病棟カンファレンスへの参加 医薬品の投薬・注射状況の把握 相互作用の確認
10:30	ハイリスク薬等の説明 処方提案、相談応需
14:00	入院時面談及び持参薬の確認 服薬計画の提案 配薬確認
16:00	病棟配置薬の確認

病棟薬剤業務実施前

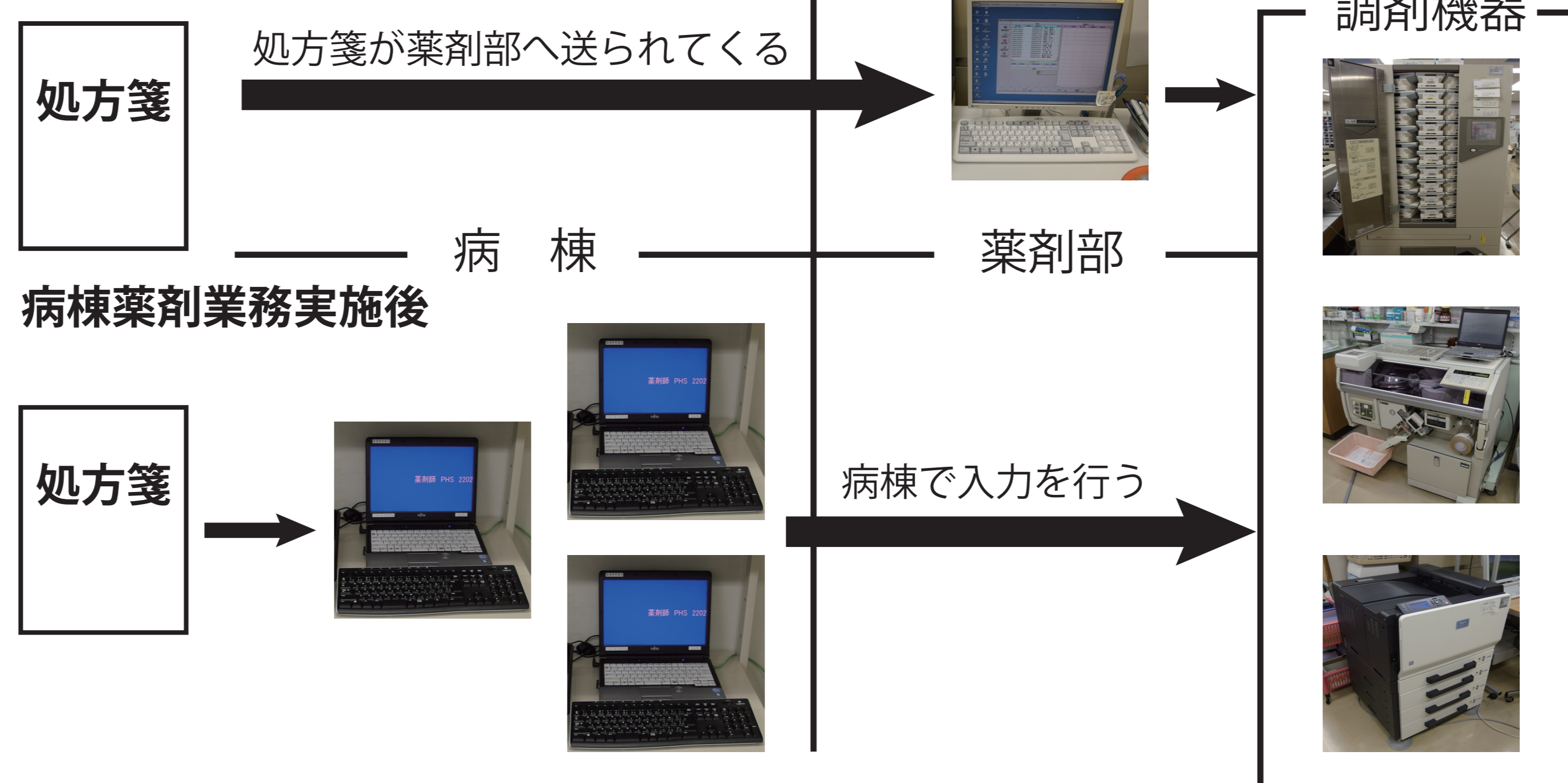


図2 病棟薬剤業務実施前後での調剤支援端末の配置

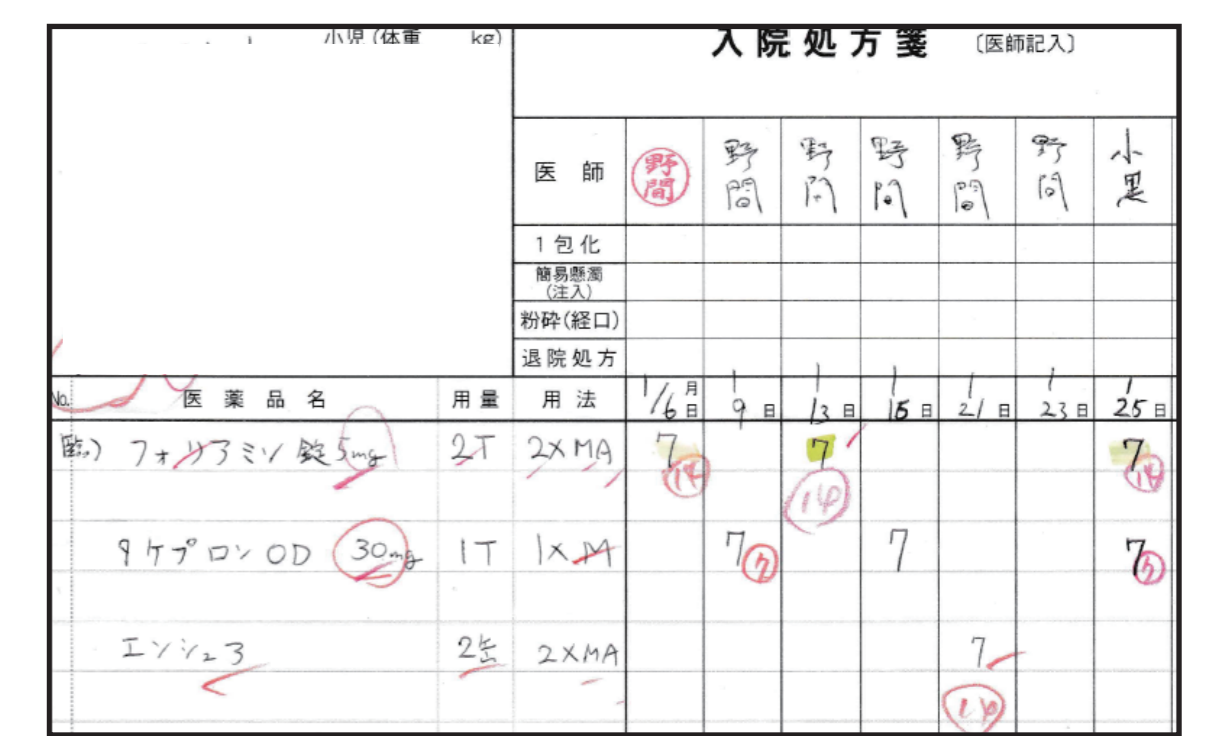


図3 入院内服・外用処方箋

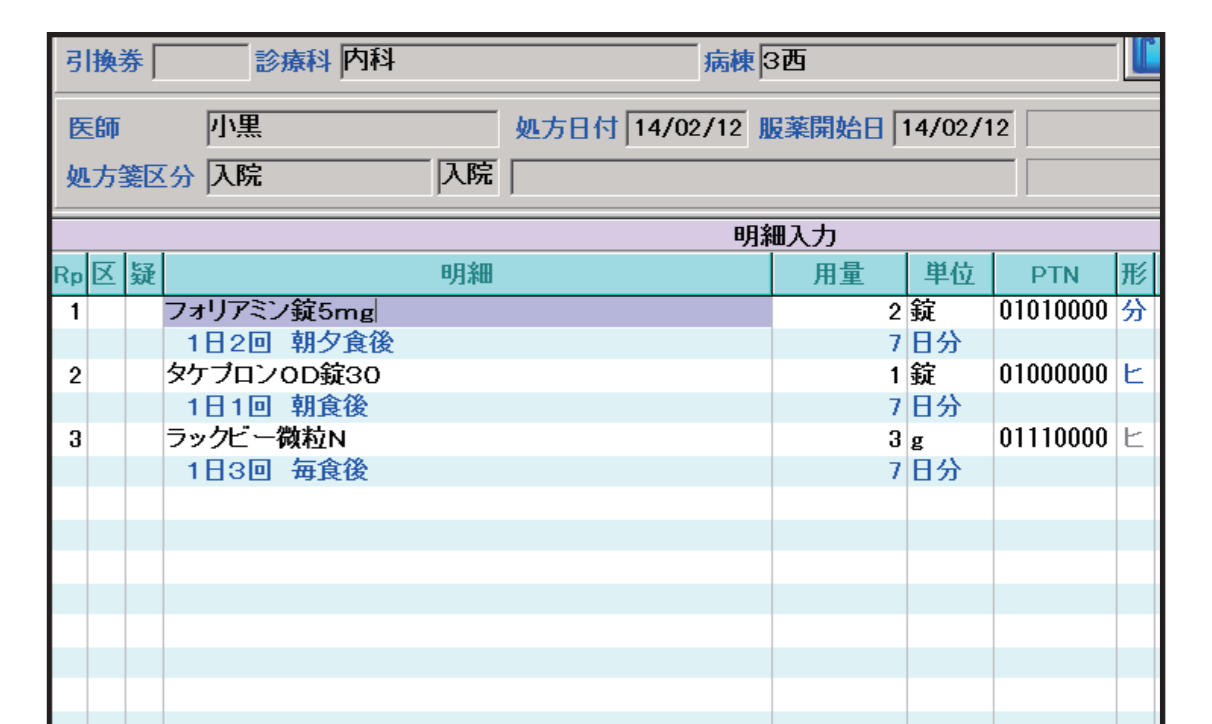


図4 調剤支援端末入力画面

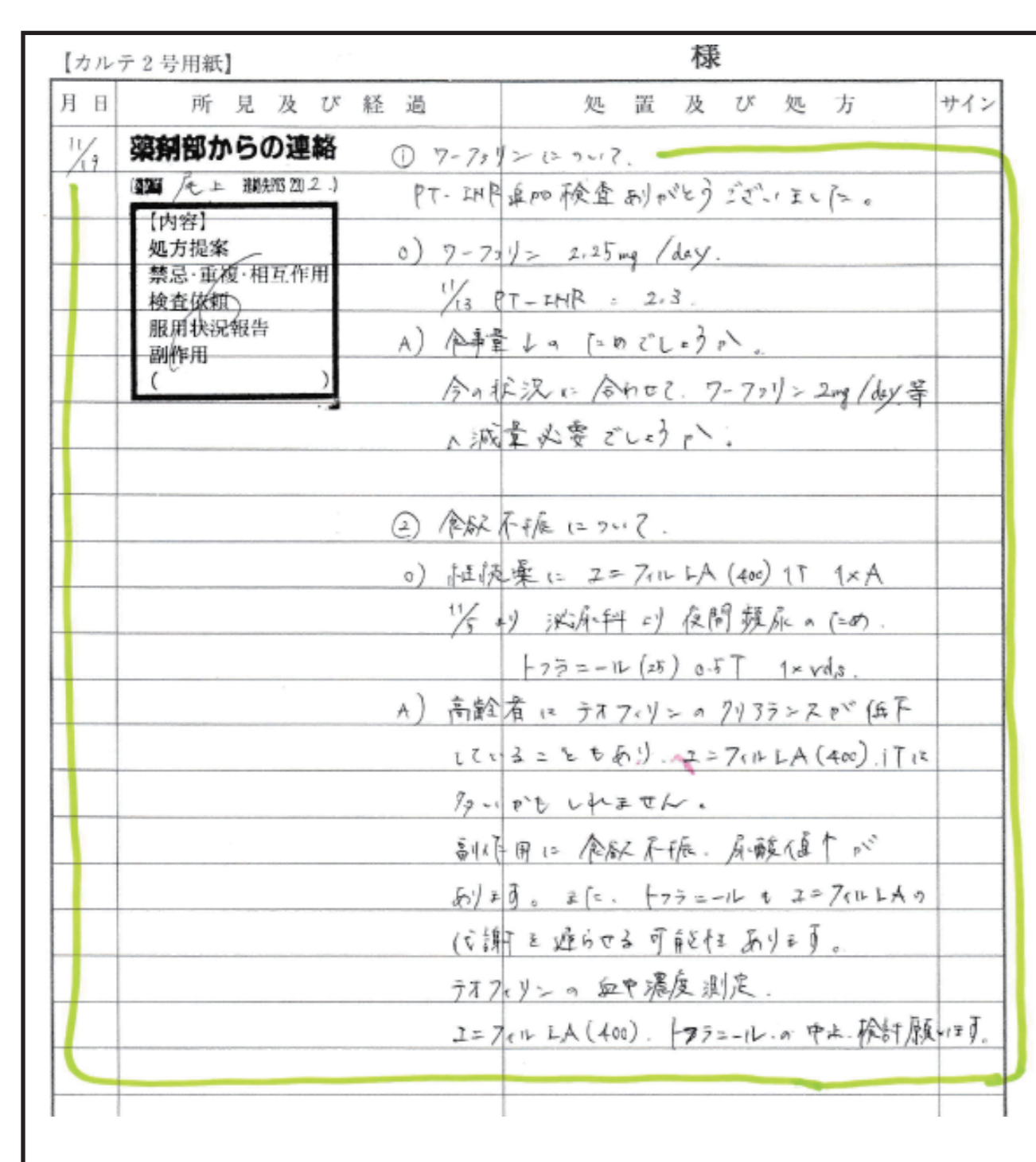


図5 紙カルテへの処方提案の記載



図6 持参薬鑑別報告書への服薬計画の記載

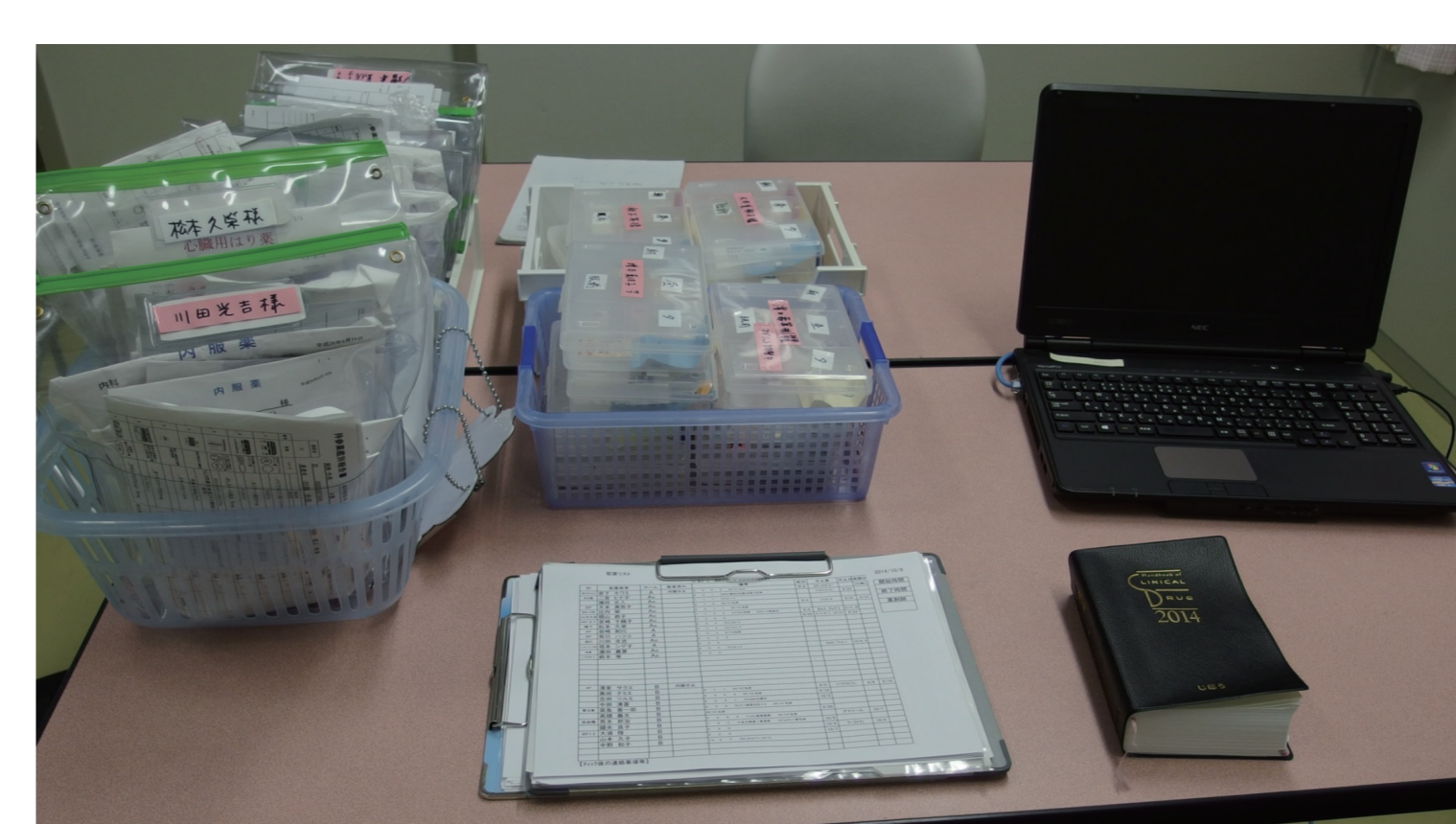


図7 配薬確認業務の様子



図8 配薬BOX

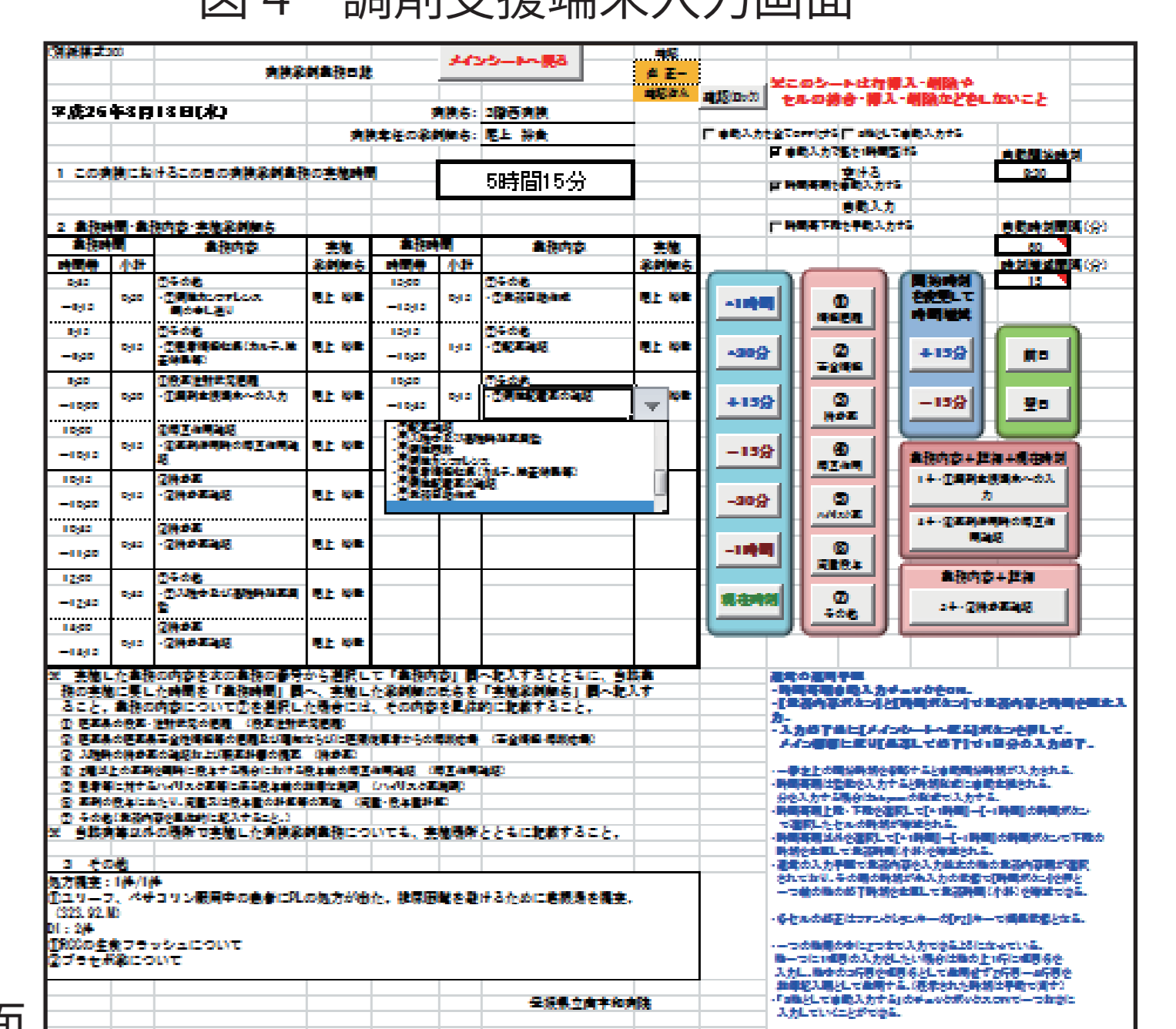


図9 日誌テンプレート画面

【病棟薬剤業務日誌システム】
病棟薬剤業務日誌作成・集計システム for エクセル（加東市民病院作成）

外来診療業務への専任薬剤師の配置



図10 内科外来処置室の様子

【外来業務の概要】

薬剤師：1名固定制（外来業務専任）
業務時間：月～金 8:30～17:15
業務場所：内科外来処置室（デスクワークを行う場所）
活動範囲：外来全科
*当院診療科：内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科
泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科
外来業務開始：平成27年7月21日
院外処方せん発行率：99.97%（年平均）

外来における業務内容

項目	詳細
規則的業務	翌日分の内科カルテを以下の項目確認 腎機能に応じた投与量、検査値、相互作用、病態禁忌薬、多剤併用等 必要に応じてカルテに処方提案を記載または医師に直接相談
不規則的業務	入院患者面談 処方箋、処方録への記載支援 DI業務 持参薬、紹介状の処方内容鑑別 疑義照会の対応 外来服薬指導 外来化学療法への介入等

【業務開始によるメリット】

- 外来に薬剤師を配置することで薬剤に関する情報提供等が迅速に行え、診療業務が円滑に進むようになった
- 外来患者の薬物療法に早期から介入し参画する中で、医師や看護師から信頼されるようになった
- 薬剤師としては外来診療における薬物療法の特性を学ぶことができ、病棟業務だけでは得られない経験を積むことができた



図11 翌日の内科カルテ確認

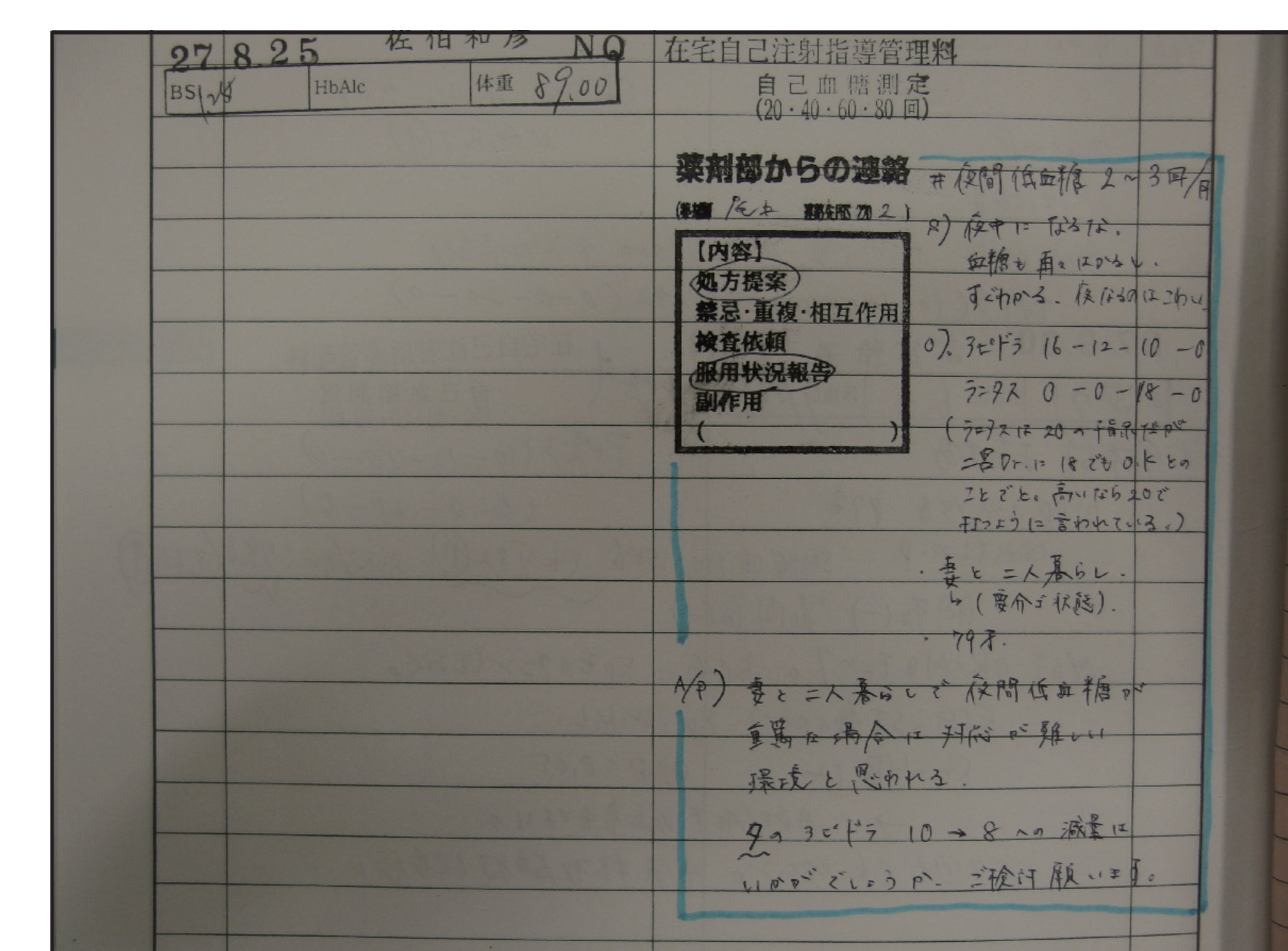


図12 紙カルテへの処方提案の記載